

## ニンジャスレイヤー・ニュービー向けエピソード紹介

ホシ

### ◆はじめに◆

とある夏の日。彗星の如くツイッター上に現れ、なんの脈絡もなく奇々怪々な物語を書き連ね、謎のアイサツを残して去った、破天荒なアカウントがいたという。その名もNINJASLAYER<sup>1</sup>。初めのうちは細々と更新を続けていたようであるが、そのアカウントから放たれる独特な文体と単純ながらも奥深いストーリーは、徐々に読者の心を掴んでいった。今やツイッターのフォロワー数は五万人を超え、書籍化に、コミカライズ<sup>2</sup>、更にはアニメ化<sup>3</sup>と様々なメディア展開を行う程に、巷では根強い人気を博しているのが、このニンジャスレイヤーという作品である。

ところでこの作品、連載が開始されてから四年の月日が経った。そのエピソードの数たるや150個近くにも到達していて、今も毎日のように更新が続いている。こうなると、ニンジャスレイヤーに興味を持ったニュービー<sup>4</sup>は、その数に困惑すること必至である。始めから読もうにも、全て読破するのには時間がかかってしまうだろう。

ここで、ニンジャスレイヤーという作品の特徴が生きる。一話完結型のエピソードの集まりによって構成される小説であるため、基本的にどのエピソードから読んでも楽しめるのだ。翻訳<sup>5</sup>された順番でエピソードから読み始め、それから全てを追ってきたヘッズ<sup>6</sup>は、それほど多くはないはず。そう、ニュービーの方々は、自分が楽しめそうなエピソードから読み始めても何ら問題はないということなのである。

そこでこの記事では、そんなニュービーの方でも読みやすく、そして、この物語の雰囲気にとっぷり浸れるエピソードを紹介していきたいと思う。この記事を読んで、少しでもニンジャスレイヤーに興味を持って頂ければ幸いである。

なお、ここから先のエピソード紹介文は、できるだけ原作のアトモスフィア<sup>7</sup>を再現できるよう努力したつもりだ。少々読みにくい文章になっているかもしれないが、そこはご了承ください。また、紹介と共に、エピソード毎に（個人的に）気に入った台詞や一文をピックアップしたので、是非そこも楽しんで頂きたいと思う。

---

<sup>1</sup> 君もいますぐ「@NJSLYR」を決断的フォロワーだ。

<sup>2</sup> 今現在、3つの漫画でそれぞれ別エピソードのコミカライズ連載が続いている。これらもツイッター上で、しかも無料で読むことができる。実際太っ腹な。

<sup>3</sup> 『ニンジャスレイヤー フロムアニメイション』は2015年に放送予定。今は備えよう。

<sup>4</sup> 初心者や新参者といった意味合いのスラング。

<sup>5</sup> 原作者はブラッドレー・モンドとフィリップ・N・モーゼズの二名、両者ともにアメリカ人。それを翻訳し、ツイッター上に公開している作品なのである。

<sup>6</sup> 熱狂的なニンジャスレイヤー・ファンのこと。

<sup>7</sup> 『Atmosphere』。いわゆる雰囲気のこと。本分中でも多用されている。

## ◆おおまかなあらすじ◆

あるクリスマスの夜。マルノウチ・スゴイタカイビル<sup>8</sup>にて、家族を連れて食事を楽しんでいたサラリマン、フジキド・ケンジ。しかし、何の因果か、突如始まったニンジャ<sup>9</sup>同士の抗争に巻き込まれ、彼の妻子はニンジャによって殺されてしまう。自らも命の危機に瀕したその時、彼に謎のニンジャソウル<sup>10</sup>が憑依。ニンジャとなった彼は、ニンジャを殺すもの。すなわちニンジャスレイヤー<sup>11</sup>となり、全てのニンジャに復讐を誓い、明けることのない戦いの日々を身を投じてゆくのであった――。

## ◆エピソード紹介◆

### 『ゼロ・トレラント・サンスイ』

相棒を殺され、復讐に燃えるソウカイヤ<sup>12</sup>のニンジャ、ミニットマン。チーター並の速度で匍匐前進<sup>13</sup>をしながら尾行を続け、仇の本拠地を掴みかけたミニットマンの目の前に、再びエントリーするのは、もちろんこの男。

「ドーモ、ミニットマン=サン。ニンジャスレイヤーです」

ニンジャスレイヤー、記念すべき初翻訳エピソード！ もう一人の無慈悲な復讐者は、今夜も一人二人と、ニンジャをその手にかけてゆく！ 単純かつ明快、ニンジャにカラテ<sup>14</sup>に全てが詰まった超短編エピソード！

そう、すべてはここから始まった！ ニンジャ活劇、今ここに開幕！

「ドーモ、ミニットマン=サン。ニンジャスレイヤーです」風に乗って、ニンジャスレイヤーのアイサツが届く。<sup>15</sup>

---

<sup>8</sup> マルノウチ地区にある高層ビル。その名の通り、高層階は雲の中に達するほど高い。

<sup>9</sup> この物語のキーワード。我々の知る忍者とは少々異なり、常人と比べて遥かに身体能力、耐久力、再生力が高く、特殊なジツを操るファンタジー的存在。この物語の舞台となる世界では、ニンジャはフィクション世界の住人であり、現実には存在していないものとされている。

<sup>10</sup> ニンジャの魂のようなもの。これに憑依されると、人はニンジャとなる。しかし、これに憑依された人間のほとんどは、その力に溺れ、凶悪なニンジャへと豹変してしまう。

<sup>11</sup> 本作の主人公。赤黒のニンジャ装束を身にまとい、鋼鉄のメンポ（注：面頬。頭部を守るための防具）には『忍』『殺』の文字が刻まれている。そのカラテは非常に強力である。

<sup>12</sup> 日本の経済を牛耳る、恐るべき暗黒組織。そのトップはラオモト・カン、強力無比にて極悪非道のニンジャである。数多くのニンジャをその配下として操り、非ニンジャから搾取を続けている。

<sup>13</sup> ハヤイ！

<sup>14</sup> 素手での戦闘のみならず、あらゆる戦闘手段の練度を示す言葉。また、単純に戦闘のことを指したり、また身体の内側の力、いわゆる気功のような意味合いで使われることもあり、多くの意味を含む奥ゆかしいワードでもある。今は備えよう。

<sup>15</sup> ニンジャの絶対的な礼儀作法。これから死闘を繰り広げる相手であろうと、ニンジャ同士は必ずこのアイサツをしなくてはならない。これを軽率に扱うことは、スゴイ・シツレイに当たる。

## 『キルゾーン・スモトリ』

廃墟と化した巨大マーケット施設で夜な夜な行われているのは、研究所を逃げ出し野生化したバイオスモトリ<sup>16</sup>を狩り殺す殺戮遊戯。駆除ボランティアという名目のもと、社会貢献めいた自尊心を満たすべく。また、殺人快楽を満たすべく！今夜も二人のカチグミ・サラリマンがこの退廃的ゲームを楽しんでいた。

が、しかし！なんの因果か、彼らは誤って立ち入り禁止区域に侵入してしまう！退廃的ゲームの裏には、暗黒メガコーポ<sup>17</sup>の影あり。そして、暗黒メガコーポの裏には、ニンジャの影あり！

サツバツの世の、インガオホー<sup>18</sup>短編エピソード！果たして彼らの運命は！？

「あなた方はルール違反を犯した。ケジメをつけてもらう。ウットコ建設グループなど、我々のバックについている財力に比べれば、ダニかノミにも等しい」

## 『メリー・クリスマス・ネオサイタマ』

近未来都市ネオサイタマ<sup>19</sup>。賄賂と汚職に塗れたこの街では、今夜もニンジャたちが暗躍していた。マップー<sup>20</sup>の世では、クリスマスの夜であろうと気の休まる夜など無い。妻子をニンジャに殺され、静かな悲しみと燃えあがる憎悪を抱えて、物思いに耽るフジキド。汚職に染まった警察と、その原因を作ったソウカイヤに怒りをあらわにする元デッカー<sup>21</sup>、ノボセ老人。彼を暗殺せんと企む、ソウカイヤの刺客ニンジャ。

括目せよ！二人の正義が、マップーの世を照らす！悲しみのクリスマスの、激闘のニンジャ・ポリス中編エピソード！

「あばよ、ニンジャスレイヤー＝サン！ 貴様の死因はバク転中の不運な転倒死だーッ！」フロストバイトはラオモト＝サンから渡されるであろう臨時ボーナスに思いを馳せながら、必殺の氷クナイ・ダートをニンジャスレイヤーの喉元に向けて投げた！

---

<sup>16</sup> 暗黒製薬会社『ヨロシサン製薬』によって開発されたバイオ生物。肥大化した人間のような姿をしており、野生化したものは非常に凶暴である。語源は『相撲取り』だと思われる。

<sup>17</sup> 国の政治を影から操るほどの力をもつ、巨大企業のこと。この手の巨大企業には、大抵公にはできない裏のビズが存在する。ニンジャを金で雇っていることも多い。

<sup>18</sup> 『因果応報』のこと。作中では感動詞めいて使われることも多い。

<sup>19</sup> 作中で、主に舞台となる街の名称で、日本の中心地である。毎晩のように重金属酸性雨が降り注ぐほどに汚染が進んでいて、治安も非常に悪い。

<sup>20</sup> 『末法』のこと。本来は悟りに入る人間が居ない時期を指す仏教用語であるが、作中では、退廃的で救いのない状態のことを言う。

<sup>21</sup> デカ、いわゆる刑事のこと。なお、一般警察官のことは『マップ』と呼ぶ。

## 『ラスト・ガール・スタンディング』

非常事態宣言レベルの自殺者数を抱えるキョート・リパブリック<sup>22</sup>。そんなキョートのある進学校で、またも悲劇の事故が起こった。校舎屋上から投身自殺を試みた男子生徒が、下で掃除をしていた女子生徒にぶつかったのである！ 当然、二人は大怪我を負い、回復は絶望的かと思われた。

そして物語の舞台はネオサイタマへ。キョートより遠く離れたこの地の高校に、ほぼ同時に二人の転校生がやってきた。一人はアフロヘアーとグラサンが特徴的な男子高校生ヤンク<sup>23</sup>。そしてもう一人は、オリガミを愛するごく普通の女子高校生。

女子高校生ヤモト・コキは、慣れない環境の中でありながら、徐々に幸せな高校生活を掴み始めていた。何かと世話を焼いてくれる親友・アサリと、その友人たちに支えられながら。

しかし、そんな幸せな日常も、やはり長くは続かなかった。殺伐と欺瞞の権化たるこのネオサイタマにおいて、幸せな日常など存在し得ない！ ニンジャ真実<sup>24</sup>に触れてしまった日常であるならば、それはなおさらだ！ ヤンク集団を一瞬のうちに皆殺するという事件を引き起こし、ソウカイヤに目を付けられた男子ヤンク、ショーゴ・マグチ。今回の彼らの狙いは、新たなニンジャのスカウトだったのだ！ そして、次なる彼らの目標も……そう、あの女子高校生ニンジャだ！

女子高校生ニンジャの逃亡劇が、男子高校生ニンジャのボーイ・ミーツ・ガール物語が！ 全ての運命が絡み合い、そして織りなすニンジャ・スクールアクション長編エピソードが、今ここに始まる！ おおブツダよ、あなたは今も寝ているのですか！？<sup>25</sup>

悲劇の高校生ニンジャたちに、救いは、希望はあるのか！

「ヤモト=サン、お前は俺とは違う。友達がいるし、これから先の事も考えられる。だからダメだ、ソウカイ・ニンジャなんて、くだらねえ」……さっき言えなかった言葉を言おうと試みたが、ほとんど声にならなかった。彼の意識は途絶えた。

---

<sup>22</sup> 日本から独立した自主国家。鎖国体制が敷かれている日本列島において、唯一海外への出入り口が整備されている観光大国である。ネオサイタマとは距離があるが、飛行機や新幹線等で直接繋がっているため、人々の行き来は頻繁に行われている。

<sup>23</sup> 反社会的な若者たち、その中でも特に過激派武装集団の、その構成員の名称。語源は『ヤンキー』だと思われる。

<sup>24</sup> 一般人が本物のニンジャに遭遇してしまうと、遺伝子レベルで刷り込まれた恐怖心から、失禁し気を失うことが多い。「ニンジャナンデ！？」

<sup>25</sup> ネオサイタマにおいて、ブディズムは多く信仰されている。しかし、このマップーの世において、神を本心から信仰する余裕のある人間が、一体どれほど存在するのだろうか……。